

1922.3.15
天風録

「髪の毛を切
って贈り物の
草履を編む」
ということわ
ざが韓国にあ

る。恩を忘れるな。い
ざとなつたら頭を丸め
るくらいの覚悟で報い
なければ。そんな教え
だという。儒教が暮ら
しに根付くお国らしい
▲とりわけ、わが師の
恩は格別なのだろう。
植民地時代を問う本紙
のインタビュ―に、82
歳になる金泳三元大統
領は旧制中学の日本人
教師の思い出話も忘れ
なかつた。キムチに鼻
をつまみ、母国語を禁
じる校長から「韓国人
の生徒をかばってくれ
た」と懐かしむ▲広島
高師出身だった恩師と
は戦後、音信不通に。
ようやく探し当てた時
には、既に他界してい

た。せめても、と遺族
を青瓦台（大統領府）
に招いた。「恩返し」を
したいときに恩人はな
し、では悔やみきれな
かつたろう▲先日思い
立って、四国に住むわ
が恩師と35年ぶりに連
絡を取った。弱い者い
じめは許さないと体を
張り、こましゃくれた
意見にも耳を傾けてく
れた先生。はがきを送
ると、便せん2枚にび
っしり思い出をつづつ
た返事が届いた。「夢
かと思った」との一文
に、思わず目頭が熱く
なつた▲もうすぐ80歳
を迎えるという。朗読
ボランティアにいそし
んで、お元気そうなの
が何よりだ。「仰げば尊
し」の気風がどんどん
遠のいていく時代。恩
師とつながり合える幸
せをかみしめる。